

## 平成 30 年度 藤島地域主要事業

### 藤島地域まちづくり未来事業【予算額 49,908千円】

合併の理念である「多様性の発揮」を実現するために、地域振興計画に基づき全市域で地域の特性を生かしたまちづくりが進められてきた。藤島地域においても、その理念を継承しつつ、新たに創設される地域まちづくり未来基金を活用し地域の未来に活力を与え、明るい希望を持てる地域社会が実現できるよう、地域振興施策を展開する

- 農業関連資源を生かした地域振興 予算額：1,853千円
- ふじの里づくりの推進 予算額：20,940千円
- 土づくり推進事業 予算額：3,202千円
- 地産地消の推進 予算額：1,940千円
- 総合交流促進施設の充実 予算額：9,197千円
- 地域コミュニティ活動の強化と活動拠点の機能充実 予算額：7,510千円
- 小規模修繕事業 予算額：5,000千円
- 地域まちづくり未来事業計画の策定 266千円

### (総務企画課)

#### 1 藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業[予算額：9,795千円] 東田川文化記念館管理運営事業[予算額：5,044千円]

平成27年7月に開園した「藤島歴史公園Hisu<sup>ヒス</sup>花」を藤島地域のシンボルとして、テーマ性のある重要な観光資源と位置づけ、魅力づくりや賑わい創出を図り、観光拠点化を促進する。

「見ごたえのあるふじ」の育成に向け、藤棚管理ボランティア団体等の協力を得ながら地域協働の地域に根差した公園づくりを推進し、ふじの花見時(5月中旬)のライトアップや、ふじのオフシーズン時(秋から冬場)にイルミネーション等を設置することにより、年間を通してふじをメインとした公園としての魅力アップを図る。

また、隣接する東田川文化記念館を含めた歴史公園一帯を藤島地域の魅力の発信拠点、住民主体による活動拠点として活用を図ることにより、地域住民が誇りと愛着をもって暮らしていける地域づくりと、活力あるまちづくりを推進する。

#### 2 庄内農業高等学校地域連携事業

【予算額：800千円 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進枠】

本市農業の人材輩出機関である県立庄内農業高等学校では、平成29年度の県立高校再編整備計画に基づく学科再編に伴い、食料生産科と食品科学科が新設されたことから、新たな地域連携事業を展開し教育機関としての同校の更なる発展と魅力ある学校づくりの取組みを同校と地域が連携して推進する。

新規事業として、ユネスコ食文化創造都市鶴岡の魅力体験事業、就農・食関連産業就職サポート支援事業、農業の成長産業・6次産業化支援事業に取り組むほか、継続事業では、農・福連携地域交流農園整備支援事業、農業コンテスト出品等PR支援事業に取り組むことにより、地域の特性を活かした農業振興と地域づくり、地域活性化と同校卒業後の地元定着の促進を図る。

### **3 自治組織等運営活動対策事業【予算額：13,661千円】**

#### **広域コミュニティ推進事業【予算額：24,980千円】**

#### **生涯学習振興事業【予算額：22,428千円】**

平成26年度より地区公民館から自治振興会が管理運営を行う「地域活動センター」に移行し、生涯学習事業に加え地域づくり活動などを含めた総合的な活動拠点として、防災、福祉など課題やニーズに応じた自主的な取組みとともに、センター施設の活用についても、これまで概ね順調に推移しているところである。

地域コミュニティの中核を担う各自治振興会においては、自治振興会連絡協議会を自主運営し、各組織相互に連絡・連携しながら円滑な組織運営及び事業実施体制の構築が図られている。

一方、少子高齢化、人口減少が進む当地域においても単位自治組織の小規模化が進んでおり61町内会のうち、自治組織総合交付金算定において小規模加算の対象となる30戸以下の町内会が、27町内会、44.3%を占め、組織役員のなり手不足など今後の人材確保が懸念されている。

また、平成28年度の空屋実態調査では213棟と前年より40棟増加し、増加率23.1%は、鶴岡全域においても高い数値であり管理者とのコンタクトが取れない空き家・不良空き家に対する対応、小学校統廃合による学校と地域コミュニティとの関わり方や廃校の有効活用など新たな課題、そして当地域内の公共交通は、バス1路線（藤島・清川線）、藤島東栄地区デマンド交通が運行しているが、長沼地区・八栄島地区は交通空白地帯であり、全市的な対応を要する交通支援対策などは、本所関係課と連携を図りながら進めていく必要がある。

### **(市民福祉課)**

#### **4 高齢者長寿祝賀事業補助 【予算額 3,776千円】**

長年の間、地域社会の向上発展に寄与された75歳以上の高齢者を心から

敬愛し、その功績を讃えて感謝の意を表する会を開催する。また、平成 32 年度までの経過措置をもって、鶴岡市の補助金単価の統一を図るため、町内会や実行委員会と協力し敬老会事業を実施する。(平成 30 年度一人当たり補助金額 1,700 円、最終補助金額 1,100 円)

## 5 市立保育園管理運営事業

本市の公立保育園については、指定管理による民営化を進めることを基本としており、藤島こりす保育園は平成 28 年度から、藤島くりくり保育園は平成 30 年度から指定管理者である「社会福祉法人ふじの里」による運営となった。円滑な運営の支援に取り組む。

## 6 藤島斎場管理運営事業 【予算額 8,184 千円】

平成 29 年度は 220 体の利用実績があり、藤島地域のみならず鶴岡斎場と共に鶴岡市の斎場業務を担っている。築 30 年を超える施設・設備ではあるが適切な維持修繕を行いながら管理していく。

## 7 福祉相談のワンストップ窓口の推進

福祉の相談機能の集約による利用者の利便性の向上と、庁舎の利活用を図るため、平成 29 年 4 月より「藤島福祉センター」が藤島庁舎へ移転し、福祉相談のワンストップサービスに向けて窓口を開設した。「地域包括支援センターふじしま」も加わった、より利便性の高いワンストップサービスが行われるように推進する。

## 8 介護予防事業の推進

身近な地域での介護予防の取り組みとして、高齢者が気軽に集まり交流・体操などができる「通いの場」づくりを地域包括支援センターふじしまや長寿介護課と連携し、「いきいき百歳体操」などを取り入れた働きかけを行う。

高齢者自身が活動的になり、健康で生きがいのある生活を実現するとともに可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域づくりを推進する。

### (産業建設課)

## 9 人と環境にやさしい農業推進事業 [予算額：633 千円]

鶴岡市が認証する有機農産物、及び独自に認証する鶴岡 I 型・II 型特別栽培米を消費していただいている首都圏消費者や給食関係者等との交流を継続し、人と環境にやさしい農業への理解者を増やすとともに、安全・安心な農作物の販路拡大を図る。

機能性と栄養価が注目されている葉茎食用サツマイモ「すいおう」の生産、及び加工、利用拡大を図る。

藤島地域内の小学生を対象に、田んぼの生き物調査と栽培農家による出前授業を継続実施する。

## 10 首都圏大学・藤島地域農村農業マッチング事業 [予算額：420千円]

本年度、新設された大東文化大学社会学部、及び11年間に亘り調査交流を行ってきた東洋大学社会学部等の地域事業への参画、チャレンジショップや農業・農村体験による移住シミュレーションの実施、地域の魅力の掘り起しや情報発信を行い、地域農業や農村の活性化を図る。

## 11 まつり振興事業（伝統芸能祭開催事業含む） [予算額：3,652千円]

地域の主要な観光事業である「ふじの花まつり」「ふじしま夏まつり」「ふじしま秋まつり」を開催する。

5月中旬開催の「ふじの花まつり」は地域外からの来客割合が多いイベントとなっており、27回目となる今回はより地域の魅力を発信するため、盆栽展をメイン会場とし藤島歴史公園でもイベントを開催する。藤島地域の花をより多くの方にPRしイメージアップを図る。

8月第一日曜日開催の「ふじしま夏まつり」は、鶴岡伝統芸能祭、ふじしま焼肉フェスティバルをメインとするまつりで、特に鶴岡伝統芸能祭は市内全域から伝統芸能団体が集まる貴重な場となっている。観光客と出演団体が、お互いに刺激し合えるよう鶴岡地域外からの伝統芸能団体を招致し、特別観覧席を設置する等集客力アップを図る。

10月最終日曜日開催の「ふじしま秋まつり」は、「つや姫の里の収穫祭」をテーマとして実施されており、機能性野菜「すいおう」をはじめとして、採れたての地域の農産物を販売し、新しいメニューの試食も行う事で「食と農による地域づくり」を広くアピールしていく。

## 12 道路建設事業

### ◇ 道路新設改良事業

- ・藤島東線表層改良工事（藤島笹花）L=100m C=5,000千円  
交通安全のため、路面の凸凹を解消するオーバーレイを行います。
- ・川尻手向線道路改良工事（東堀越）L=50m C=2,500千円  
道路上の雨水湛水と宅地への侵入を防ぐため、道路側溝を整備します。
- ・渡前砂塚線2号橋（和名川）橋梁補修工事 L=5.3m  
橋桁に破損があるため、断面補修を行います。
- ・下町駅前線（街路藤島駅笹花線関連）用地補償 C=4,000千円  
藤島駅笹花線道路改良とともに、藤島駅前交差点に結合している下町駅前

線の交差部を変更して変形交差点を解消します。

◇ **道路公共事業**

- ・長沼地区冠水対策事業（長沼）調査設計業務 一式  
京田川防災減災対策事業と連携し、長沼集落内の冠水被害を防ぐ事業に向けて調査設計業務を行います。

**13 その他建設事業**

◇ **公園新営改良事業**

- ・藤島歴史公園暗渠排水管設置工事 C=5,000 千円  
藤島歴史公園内の表面排水を改良するため、暗渠排水管を設置します。

◇ **市営住宅維持管理事業**

- ・ふじなみ住宅外壁改修工事 3棟分 C=5,000 千円  
ふじなみ住宅の外壁が経年劣化により風化が進んでいるため、傷んだ外壁を改修します。

## 平成30年度 農業委員会の主な取り組み

本市農業委員会は、昨年11月に改選され、農業委員と新しい制度により農地利用最適化推進委員が配置され、新体制のもと第5期農業委員会がスタートした。

改正法により位置づけられた「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」を本年3月に策定し、遊休農地の発生防止・解消や、担い手への農地利用の集積・集約等、農地利用の最適化に向け、農業委員及び農地利用最適化推進委員（以下「推進委員」という。）が一体となって、具体的目標を掲げながら取り組んでいく。

### （農地利用の最適化の推進）

#### （1）遊休農地の発生防止・解消

「農振農用地区域に新たな遊休農地を発生させない。」ことを目標に、市内11地区の農用地利用等調整委員会（以下「地区調整委員会」という。）や集落生産組合と課題を共有・連携し、利用状況調査の徹底、日常的な見回りや声掛け等により遊休農地発生未然防止を図る。

#### （2）担い手への農地利用の集積・集約

農業委員会の方針のもと、地区調整委員会が主体的に地域の事情に合った取り組みにより、農地集約を図っていく。

具体的には、地域内にリタイア等がでてきた場合は、地域での話し合い（人・農地プラン）を基本に、必要に応じて農業委員・推進委員が参画・助言を行い、適切な担い手へと農地集約を図っていく。

また、平成29年度にモデル的に行った農地集約事業（耕作地の交換）についても、広くPRしながら全市的展開により分散錯圃の解消を図っていく。

#### （3）新規参入の促進

新規参入者促進のため、関係機関等と連携した農業経営に関する助言や、アグリランドバンク（新規就農支援型）等による農地確保、補助・融資制度等のPRを行っていく。